

平成27年度オホーツク総合振興局管内ケガニ漁場一斉調査結果

平成27年5月8日

(地独) 北海道立総合研究機構水産研究本部

網走水産試験場

この調査は、漁期前半のケガニかご漁業の状況をモニタリングする目的で行われています。昭和60年から毎年1回、下記機関と共同で継続実施しています。

網走支庁管内毛がに漁業対策協議会および各漁協げがにかご部会

北海道オホーツク総合振興局産業振興部水産課

宗谷総合振興局管内についても同様の調査を実施しており、その調査結果は稚内水試が取りまとめています(稚内水試のホームページをご参照ください)。

なお、次年度の資源量や漁獲許容量については、漁期後半の「資源密度調査」から推定されます。

調査結果の要約

- ・ 甲長8cm以上雄の100かご当たり漁獲尾数は376尾で昨年(293尾)の1.3倍であり、過去のオホーツク総合振興局管内の平均値(310尾)の1.2倍でした。
- ・ 甲長8cm未満雄の100かご当たり漁獲尾数は71尾で昨年(138尾)の0.5倍であり、過去の平均値(137尾)の0.5倍と半分に減少しています。今後の加入状況には注意が必要と思われます。
- ・ 甲長8cm以上雄に占める堅ガニの割合は管内平均では78%で、昨年(66%)より12ポイント増加しました。
- ・ 全ての雄のうち甲長8cm未満の雄が占める割合は16%で、昨年(32%)より16ポイント減少しました。

調査方法

平成27年度の調査は雄武、紋別、湧別、網走、ウトロの各漁協に所属するげがにかご漁業許可船8隻が参加し、4月14日から28日までに実施しました。

各船は通常の漁場で操業し、漁獲されたケガニを選別せずにコンテナ1杯(約40kg)になるまで採集しました。このときコンテナが1杯になるまでのカニかごの数を記録してもらいました。また、採集した標本を無選別のまま全て(雌や8cm以下の雄を含めて)港に水揚げし、甲長や体重などを測定しました。

調査結果

表1に各船の調査日、調査点の緯度経度、水深、C P U E (1隻100かご当たりの漁獲尾数)を示しました。

表 1 2015(平成27)年 オホーツク総合振興局管内ケガニ一斉調査標本採集データ一覧

海域	漁協	調査日	船名	北緯	東経	水深 (m)	C P U E (100かご当たり漁獲尾数)				
							甲長8cm以上オス			8cm未満	
			堅	若	計	オス					
網走西部	雄武	4月14日	第十八進栄丸	44-42.8	143-10.1	105	492	223	715	77	23
	"	"	第三十八銀栄丸	44-48.0	143-0.6	98	314	21	336	29	14
	紋別	4月15日	第三十八均栄丸	44-31.9	143-29.3	95	321	89	411	63	0
	"	"	第八志宝丸	44-23.2	143-39.2	84	352	14	367	90	5
海域1隻平均							370	87	457	65	11
網走中部	湧別	4月27日	第八幸春丸	44-22.0	143-43.2	92	272	61	333	122	0
	"	"	第二十八金栄丸	44-24.6	143-44.7	111	377	92	469	69	0
	海域1隻平均							325	77	401	96
網走東部	網走	4月23日	第三十八瑞進丸	44-1.3	144-26.4	55	137	158	295	89	105
	ウトロ	4月28日	第二十三北翔丸	43-2.5	144-54.0	62	81	5	86	25	4
	海域1隻平均							109	82	190	57
管内1隻平均							293	83	376	71	19

・CPU E (100かご当たり漁獲尾数)

図1に漁獲対象である甲長8cm以上雄ガニのCPU Eとそれに占める堅ガニの割合の年変化を、図2には8cm未満の雄ガニ(規格外)のCPU Eを地域別とオホーツク総合振興局管内全体で示しました。

注) :この調査は通常操業用の3寸8分目のかにかごによる調査であるため、密度調査と異なり、採集される雄ガニのほとんどは甲長7cm以上の個体となっています。

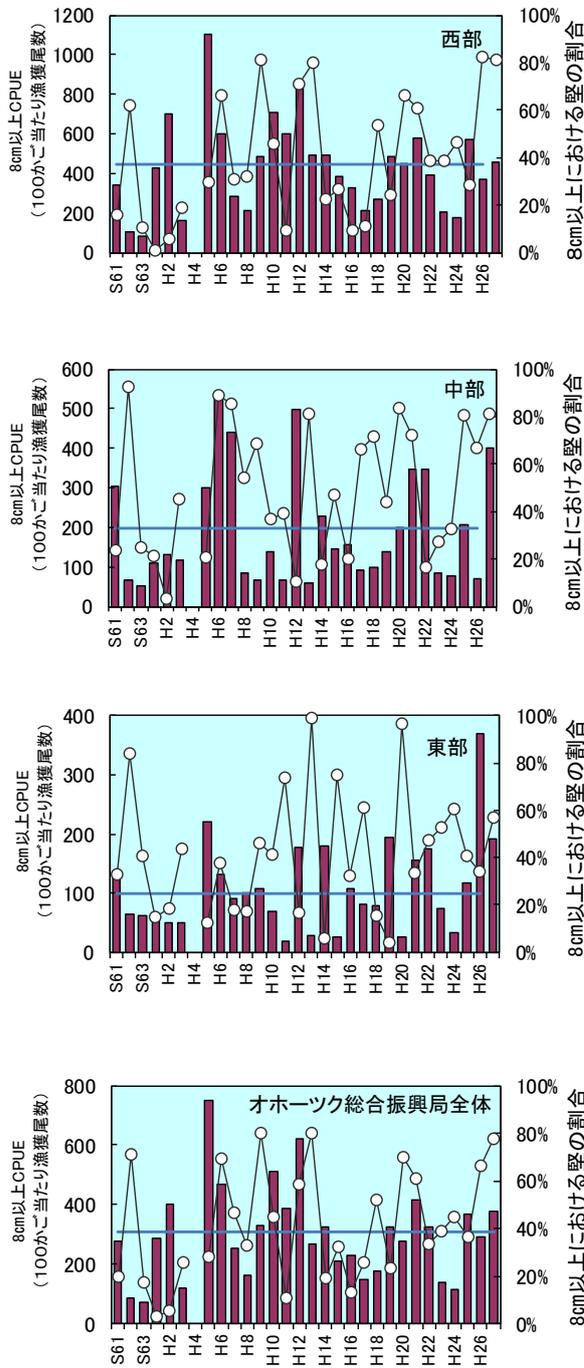


図1 甲長8cm以上雄の100かご当たり漁獲尾数(CPU E; 縦棒)と堅ガニの割合(白丸折れ線)の推移(青線はCPU E平年値)

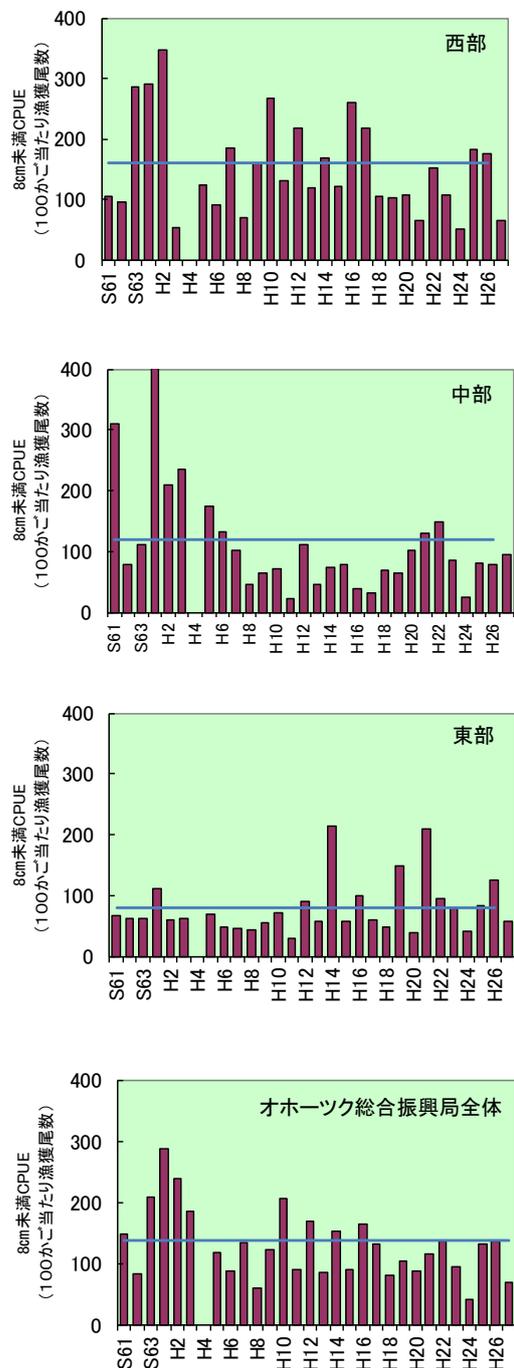


図2 甲長8cm未満雄(規格外)の100かご当たり漁獲尾数の推移(青線は平均年値)

①甲長8cm以上の雄ガニのCPUE：

管内の平均CPUE（1隻100かご当たりの漁獲尾数）は376尾で、平成26年度（293尾）の1.3倍で、昨年より増加しました（図1）。また、平年値（昭和61年から平成20年までの平均値310尾）と比較すると、平成27年度の値は平年値の1.2倍でした。

海域別にみると、西部海域は457尾で昨年度（367尾）の1.3倍、中部海域は401尾で昨年度（70尾）の5.7倍、東部海域は190尾で昨年度（369尾）の0.5倍となり、東部海域以外、特に中部海域で大きく増加しました。平年値と比較すると、西部海域（平年値446尾）は1.0倍、中部海域（同196尾）は2.1倍、東部海域（同99尾）は1.9倍で、中部海域と東部海域では2倍程度に増加しました。

②甲長8cm未満雄ガニ（大部分が7cm台）のCPUE：

管内の平均CPUEは71尾で、昨年度（138尾）の0.5倍でした（図2）。また、平年値（137尾）と比較すると平年値の0.5倍と半分に減少しています。

海域別にみると、西部海域は65尾で昨年度（183尾）の0.4倍、中部海域は96尾で昨年度（78尾）の1.2倍、東部海域は57尾で昨年度（124尾）の0.5倍と、中部海域以外は半分程度に減少しました。平年値と比較すると、西部海域（平年値160尾）は0.4倍、中部海域（同119尾）は0.8倍、東部海域（同79尾）は0.7倍で、全海域で減少、特に西部海域で急激に減少しました。今後の加入動向が懸念されますが、この調査は通常操業用の3寸8分目のかにかごによる調査であるため、密度調査と異なり、採集される雄ガニのほとんどは甲長7cm以上の個体となっているため、今後の加入動向については6月の密度調査によって精査される予定です。

・甲長8cm以上雄の堅ガニの割合と漁獲動向

採集された甲長8cm以上雄ガニのうち、堅ガニの割合は管内平均では78%で、昨年度の66%より12ポイント増加しました（図1）。海域別に見ると、西部海域は81%で昨年度の82%より1ポイント減少しました。中部海域は81%で昨年度の67%より14ポイント増加、東部海域は57%で昨年度の34%より23ポイント増加しました。

甲長8cm以上の堅ガニのCPUEは管内平均1隻当たり293尾（表1）で、昨年度（194尾）の1.5倍でした。海域別には、西部海域が370尾と昨年度（302尾）の1.2倍、中部海域が325尾と昨年度（47尾）の7.0倍、東部海域が109尾で昨年度（125尾）の0.9倍でした。

・各銘柄（サイズ）の漁獲割合

全漁獲物の雄ガニのうち、銘柄「小」（甲長8cm台）の割合は、管内全域としては昨年度（53%）より5ポイント高い58%、「中」は昨年度（14%）より14ポイント高い24%、「大」は昨年度（2%）より1ポイント高い3%でした（図3）。また、規格外雄の総数に占める割合は、管内全域としては昨年度（32%）より16ポイント低い16%でした。

甲長8cm以上雄ガニのうち、海域別に見た銘柄「小」が占める割合は、西部海域が昨年度（71%）より6ポイント減少して65%、中部海域が昨年度（73%）より1ポイント減少して72%、東部海域が昨年度（91%）より16ポイント減少して75%となりました（図4）。

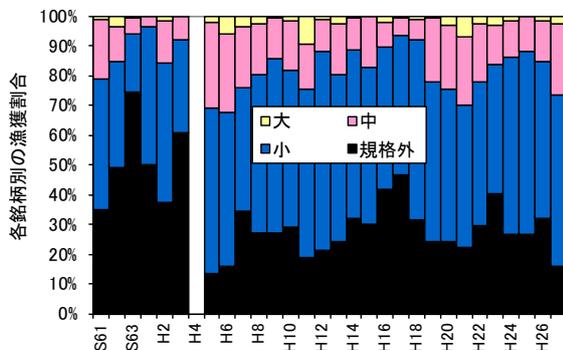


図3 オホーツク総合振興局管内全体における銘柄別漁獲割合 (%) の推移

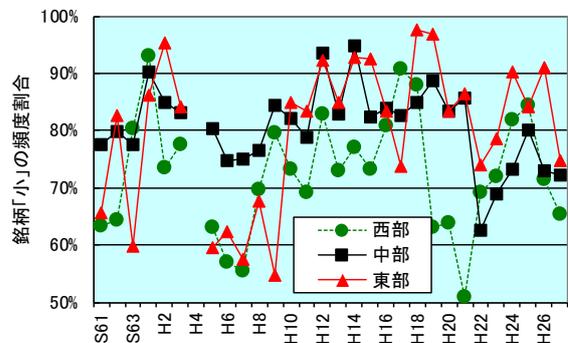


図4 甲長8cm以上（規格内）の総数において小（8cm台）が占める割合の推移